

## 三鷹市立第四小学校 総理視察（総理との懇談） 議事録

---

1 日時： 平成 22 年 2 月 20 日（土） 10:30～10:57

2 場所： 三鷹市立第四小学校

3. 出席者：

（委員出席者）

井上 英之 慶應義塾大学総合政策学部専任講師  
大西 健丞 公益社団法人 Civic Force 代表理事  
小栗 泉 日本テレビ報道局記者  
海津 歩 (株)スワン代表取締役社長  
金子 郁容 慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科教授  
金田 晃一 武田薬品工業(株)コーポレート・コミュニケーション部シニア・マネージャー  
島田 京子 日本女子大学共同教職大学院設置準備室室長  
堀 久美子 UBS証券会社 コミュニティ アフェアーズ マネージャー  
渡邊 奈々 写真家

（政府出席者）

鳩山 由紀夫 内閣総理大臣  
菅 直人 副総理  
仙谷 由人 内閣府特命担当大臣（新しい公共担当）  
松井 孝治 内閣官房副長官  
大島 敦 内閣府副大臣  
渡辺 周 総務副大臣  
鈴木 寛 文部科学副大臣

（三鷹市出席者）

清原 慶子 三鷹市長  
貝ノ瀬 滋 三鷹市教育長  
鈴山 尚子 三鷹市立第四小学校校長  
小澤 敏男 三鷹市立第四小学校学校運営協議会会長  
島野 浩二 NPO 法人夢育支援ネットワーク理事長

---

○金子座長 総理が官邸の庭で竹トンボ大会を開催する日も来るのではないかと思います。今日は連雀学園三鷹市立第四小学校を訪れる機会を得て、いろいろ見させていただきました。どうもありがとうございました。これから、三鷹市の皆様との懇談を始めたいと思います。

総理も大いに興味深く見て回られたんですけれども、まだ時間がございますので、皆様からの御意見をいただきたいと思っております。

最初に、貝ノ瀬教育長の方から、三鷹市の教育について簡単にご説明をお願いします。

○貝ノ瀬教育長 皆さん、ありがとうございました。お疲れ様でございました。

今日ごらんいただきましたのは、きらめきクラブというクラブですが、これは地域の方々、保護者の皆さん、市民の方々が御自分の得意なわざを子どもたちのために、中学校で言えば部活動に近いんですけれども、それを早朝とか、放課後とか、土曜日とか、日曜日とか、御都合のいい時間帯に子どもたちを集めて、希望制ですけれども、やっています。今日は10クラブぐらいでしたけれども、全部で20クラブぐらいありまして、子どもたちだけではなくて、保護者の皆さんも参加できるようになっています。

このクラブのほかに、本校は、いわゆる総合的な学習の時間に入るボランティアもおりまして、それはどちらかといいますと、職人さんとか、プロに近い方に特別に御指導いただくというボランティア。

もう一つ、きわめつきは、これは多分、ほかの自治体の学校には余りないかと思えますけれども、いわゆる勉強の時間に算数、国語といった教科に入ってもらってボランティア。これは教員が丸投げしてお任せするというのではなくて、一緒にその授業をつくり、そして、子どもたちを育てていくということです。

これが大きく3種類、登録制にしまして、それでボランティアをやっているんです。これは私が10年前、校長のときに始めまして、今、全市展開をして、程度の差こそはあれ、すべての学校、22校が全部、こういった形を取って進めております。

もう一つ、清原市長の公約でありました小中一貫教育をすべての学校が連携型で、今、展開されている。ですから、コミュニティ・スクールと小中一貫教育がセットになって、教育が進められているというわけでありまして。

特に教育ボランティアについては、本校だけで延べ2,000人の方が出入りして活躍してくださっています。ですから、ここは学校が一つのプラットフォームになって、地域の人たちがみんな寄り合って、大人も子どもも集まれる。学校に来ればいろんなメニューがある。すぐそこに学童クラブがありますけれども、その子どもたちも相互乗り入れしてやっています。それで、この子どもたちも学童クラブに行けますし、むらさき子どもひろばという児童館の子どもたちもここで相互乗り入れをしているということです。

このシステムを安定的に、または継続的にやっていくためにはどうしても、やはりボランティアの方々の組織化が必要ということです。つまり教員は、校長もそうですけれども、一定の期間が経ちますと人事異動で入れ替わってしまいます。そうなりますと方針が変わったりしますので、方針が変わっても安定的に教育ボランティアの制度で、この地域がみんな子どもを支えていこうとい

うシステムはなくさないようにしようということで、NPO法人をボランティアの方たちがつくりました。これが夢育支援ネットワークという形でNPO法人をつくり、大体200人ぐらいの方が登録して会員になっていらっしゃると思います。そういう方々が、この子どもたちの教育活動は勿論ですけれども、つい最近では、この活動がだんだん活発になりまして、そこの学童クラブの指定管理者にも手を挙げてもらう。このように、さまざまな活動を拡大して展開しているのでございます。

これは、地域ぐるみで子どもを育てるということを制度化して、今、発展させていますが、市内の学校すべてが同じ形で、今、展開をしているところでございます。ただ、教育ボランティアがNPO法人になっているのはこの学校だけでございますけれども、この既存の公共空間を最大限活用して、いろんな方がここに集って、きずなを深め、ともに支え合い、そして、お互いに当事者意識を持って、子どもたちの教育にあたっています。そして、お年寄りも、勉強できる子も、できない子も、障がいがある人も、ない人も、みんなここに集って、ともに支え、助け合い、励まし合って生きていけるような、そういう学校づくり、つまりコミュニティづくりを目指してきた。

その間は金子先生にもいろいろ御指導をいただきましたし、ここにいらっしゃる島田さんにも、日産自動車の部長さんのときは電気自動車を持ち込んでいただきまして、環境教育の授業をやってもらったりしました。個人、市民だけではなくて、企業の方も参加していただき、とにかく子どもたちをブラッシュアップするために大勢の方に力を尽くしていただいて学び合うシステム的一端を見ていただきました。

以上でございます。

○金子座長 ありがとうございます。

2点だけ補足しますと、三鷹市のすごいところは、教育長が、いい教育は三鷹市のどこに住んでいる子どもたちにも受けられるようにしようという強い気持ちで、モデル校をいくつか作るのではなくて、市立学校22校すべて小中一貫、コミュニティ・スクールにした。しかも、学校の統廃合とか、校舎を新しく建てるとかはしないで、中学校区の中学校と、2つないし3つの小学校を組織的に連動させて、学園ということで小中一貫教育を実現した。これはいろんな事情にもよりますけれども、できるだけお金をかけないで内容をしっかりと充実させることで、ひとつふたつのモデル校ではなく、市のすべてで展開するということです。小中一貫校をどう広めるかは、文科副大臣の鈴木さんの大きな一つの課題だと思いますけれども、こういうものが全国に広まるとすばらしいと思います。

第二点は、清原市長のリーダーシップの下、貝ノ瀬さんはすばらしい教育長なんですけれども、それだけにとどまらず、校長先生が、学校が、教員が、教育委員会職員が、みんな大変元気で、はつらつとしております。それから、コミュニティ・スクールの運営協議会会長の小澤さん、それから、さきほど話が出た夢育ネットワークの島野さんがいらっしゃっていますが、本当にだれが校長かわからないぐらいの感じで地域住民の人たちが学校に来て一緒にやっているところがすばらしいと思います。

それでは、今日、いろいろ見ていただいたので御質問なり御議論があると思いますけれども、鳩山さんから最初に一言だけ、竹トンボが飛ばなかったのはどうしてかということは別にして、感想

をお願いします。

○鳩山内閣総理大臣 竹トンボが絶対に飛ぶコツがわかりました。そんなことはどうでもいいですね。

○金子座長 理系ですからね。

○鳩山内閣総理大臣 今、お話を伺って、この夢育支援ネットワークと先生方との間の連携というものをどのようになさっておられるのかな。今、授業を、私も伺ったところでは、例えば分数などがわからない子どもたちに数名のボランティアの方が加わって、手とり足とり教えることによって、教える側も教えて幸せを享受できるという大変すばらしいシステムをつくり上げておられると思うんですけども、そのためには、先生方とPTAの保護者の方々と、それから、夢育支援ネットワークのボランティアとがうまく連携プレーをやらないといかぬですね。その辺を、どういう仕組みをつくられておられるのか、ちょっと聞かせていただければと思います。

○金子座長 鈴山校長から、現場の視点からのお話ををお願いします。

○鈴山校長 まず授業の方ですけども、年間計画の中で、ここはボランティアに入っていたきたいという場所を教員の方で計画を立てまして、2週間前までに、この単元の、この時間に、こういう内容で、何名のボランティアが欲しいというものを夢育支援ネットワークのスタッフルームの方に届けます。

そうしますと、夢育支援ネットワークの方には、そのボランティアの方たちが登録されていますので、メール発信していただきます。それで、メール発信していただいて、返事を基にとりまとめて、だれは何時間目のどこに、そして、打ち合わせはここのこの日時に行いますというものをまた両方、ボランティアにも教員の方にも伝えていただきます。そして、それを基に、授業の前に教員とボランティアの方たちが打ち合わせをいたします。その上で授業に臨みます。

それで、その後、すぐに打ち合わせができれば一番いいのですが、教員はその後授業がございますので、必ずその日の感想とか、この子どもはこのようだったというような姿も書いていただいています。それを基に、また教員が見て、それに返事を書くというようにして行っています。

○金子座長 小中一貫教育は、結構、教員の負担が多いと思うんですけども、教員の方からの評判はどうなんでしょうか。

○鈴山校長 初めてこの第四小学校に来たばかりの教員の方は、今までと違うので、やはり多少の抵抗感があるのですけれども、実際に始めてしまいますと、本当に必要なところに入ってくださいますので、なしには考えられないと思います。非常に子どもにとってプラスです。

○金子座長 教育長、何か一言ございますか。三鷹の小中教育は、貝ノ瀬教育長の発案で今に至ったということですね。

○貝ノ瀬教育長 どこでもボランティア自体が入るというシステムが、最近、全国に普及していますけれども、保護者や地域の方は大賛成で協力的なんです。だけれども、先生方は大体、抵抗勢力なんです。毎日が授業参観になりますから、非常に抵抗があるんです。

ですから、子どもが落ちつかなくなるとかとおっしゃって、なかなか入れてくれない。しかし、もともと先生は、子どもたちのためにということで先生になっていますから、やはり本当に子ども

たちのためになるということを一息実感すると、それこそ前向きに取り組めるようになります。ですから、そこまで持っていくのが校長の腕だと思いますが、鈴山先生も頑張っていたいております。

○金子座長 貝ノ瀬さんは今度、本をお出しになるということで、詳しくはそちらを読んでいただければと思います。

島野さん、夢育支援ネットワークの方から見たご意見をどうぞ。

○島野理事長 それでは、地域側から申し上げます。今、総理がおっしゃったとおり、先生たちと我々ボランティアが本当に信頼関係を築いていかないと、これはできないんです。

ですから、我々としては、どうやって先生たちに私たちの思いを伝えるかというのは、まさに授業そのものではなくて、その前に、例えば新任の若い先生が第四小学校に来ます、それで三鷹に住みたいと言えば、アパートの世話をしますとか、授業が終わった後、飲み会に行くと、三鷹はこういう場所だからねというふうな話をしていながら、夢育のメンバーとの交流を深めます。それと大事なことは、我々は学校の授業で知ったことを外でばらして面白おかしくしゃべるとか、そういうことは絶対ないんです。今まで10年やっていて、授業で起きたことで、先生をあげつらったり、ある生徒のことを話題にしたりして、そのことが原因で不信感に至ったというふうなことは、実は1回もないんです。

これはとても厳しいルールをつくっているんですけれども、そのことに十分理解をする市民もいっぱいいますし、先生たちもそれが理解していただけるということがとても大事な切り札だったかなと思います。

○金子座長 ありがとうございます。

これは大変大事な問題ですね。ほかに何か御質問はございますか。

渡辺さん、どうぞ。

○渡辺総務副大臣 せっかくですので、是非、島野理事長に伺いたいんですが、今「新しい公共」を寄附税制で支えようというプロジェクトチームの座長をしていて、4月までに結論を出すということで、渡辺と申します。

ちなみに、このNPO法人夢育支援ネットワークの年間のかかっている経費とかコスト、率直にこれぐらいかかるということと、もう一つは皆さん方が、200名登録されているということですが、普段はどういうことをしていらっしゃる方々か。ちょっと構成を教えてくださいませんか。

○島野理事長 それでは、後半の方から申し上げますと、学校の支援活動ですので、昼間動ける人でないとだめなんです。そうなりますと、昼間に学校に来て応援できるという人は専業主婦、シニア、学生、この地域で仕事をされている少し時間のできた経営者のような、この4つのパターンでしょうか。それで、今日もごらんになっていただいたと思いますが、最近とみにシニアの方の活躍が多くなってきました。ですから、基本的にはシニアと主婦が多いですね。

それから、予算的なことを申し上げますと、基本的には我々の活動はすべてボランティアです。ただ、校長の方からSAの連絡網にネットワークを使うとか、実際にそういう作業をする事務局が

どうしても要るんです。つまり、学校側の要請と地域側とのコラボレーションをしながら、言わば適切な人を適切な場所に送り込むみたいなことをやるわけですし、そのためには、常駐とは言いませんけれども、さっきスタッフルームをごらんになったかもしれませんが、あそこに毎週1回は必ず集まりますし、実はほとんど参加されている。そうしますと、そこに関する、費用弁償とは言わないんですけれども、若干のこれはどうしてもかかるので・・・小澤さん、今年度はどうでしたか。

○小澤会長 年間60万円ぐらいです。

○島野理事長 そのぐらいはどうしてもかかる。それは企業の寄附、あるいは賛同者の寄附とか、小澤さん、今までは企業が多いですか。

○小澤会長 はい。

○島野理事長 マイクロソフト社とか、名前を言っただけではいけないですね。それとか、地元の企業とか、この趣旨に賛同してくれる企業から浄財をいただいております。

○渡辺総務副大臣 ありがとうございます。

○金子座長 わかりました。夢育支援ネットワークに行く寄附に対しては、寄附者の控除はないです。その辺は、渡辺副大臣に寄附税制改革について考えていただく余地があるかもしれません。

ほかはいかがでございましょうか。

菅副総理はどうですか。地元なので、三鷹についてはもうよく御存じだと思いますけれども。

○菅副総理 灯台下暗しで、少し顔を出すのが遅れたんですが、昔から話は聞いておって、我が家までここから歩いて10分ぐらいで帰れますから、そのうちボランティアで、分数を教えるのは得意ですから、やらせてもらいたいと思います。

○金子座長 仙谷大臣、どうぞ。

○仙谷内閣府特命担当大臣 市長さんとさっき雑談をしていたら、毎年1,000人ぐらい人口が増えていっちゃうということなんですけれども、これはやはり孟母三遷の教えみたいな効果があるのでしょうか。

○清原市長 御質問ありがとうございます。

三鷹市では、公立学校が責任を持てる公教育において、先ほど金子座長から御紹介いただきましたように、学校の建物を合築するのではないけれども、カリキュラムの一貫性と、教職員と児童・生徒が交流する「小中一貫教育校」を設立しております。そのことに対する御評価というものは、私、市長でございますが、教育委員会だけではなく市長に対しても直接いただいております。

更に、保育園とか幼稚園とか、そうした幼児段階の関係者の皆様との連携で、「幼保小連携」ということで、私立幼稚園しか三鷹市にはございませんが、私立幼稚園との連携、公立保育園・民間保育園との連携なども、市長部局と教育委員会が一体となって進めておりますので、実は子育て支援サービスにつきましては、『日本経済新聞』等の調査で「行政サービス度日本一」というような御評価もいただいております。そのようなことを聞いた方が、子育てをするなら「小中一貫教育」もある三鷹市へというような御反応が、人口が増えた要因の中にはあるのではないかなと自負しておりますが、常に私たちは謙虚に考えております。

もう一つの要因は、長寿化でございます。やはり高齢者の方が、今日もご視察いただいた中で御

活躍いただいていたように、退職後も元気で、地域に自己実現の場所を持っていただいているというのも、人口が増えている理由の一つではないかなと思います。

以上です。

○金子座長 それでは、円卓会議のメンバーの方で1つ、2つ。

海津さん、お願いします。

○海津委員 障がい者の会社を経営しています、スワンの海津と申します。

障がい者はできないことがあるわけです。オールマイティーではありません。私どもの社是は「長所を生かして、短所は仲間が助ける全員経営」です。短所を引き上げるのは厳しいですから、長所を生かして、とにかく全員でだれ一人欠くことなく参画するということです。

先ほど、わざのある人はすべて使うんだということをおっしゃっていました。ここの成功事例のポイントは全員を主人公にするということと、そのために、参加者のできると楽しいを大切にしていることだと思います。これは今、どの組織でも必要とされています。我々は、この成功事例のポイントを読み解いて、スケールアウトしていかなければいけないと思います。

スケールアップというものは自分のところを高めていくということだけですが普遍化していくためにはスケールアウトしていきながら、同じようなものをコピーしてつくっていくということが非常に重要な力になってくると思います。三鷹だからできたのではなく、通底にあるポイントを伝播させ各論は各地方に任せていくことが必要と思いました。非常に共感いたしました。ありがとうございました。

○金子座長 ありがとうございます。

三鷹の小中一貫教育は、第一号になった「にしみたか学園」から始まって、どんどんスケールアウト(横展開)しています。小澤さんは、学校と地域の狭間で多分、いろいろ御苦勞はあると思いますが、今日来ていただいている方の中で一番保護者に近い立場から、コミュニティ・スクール学校運営協議会会長としていかがですか。ほかの学園との連携とかはどうでしょうか。

○小澤会長 ありがとうございます。

三鷹は小中一貫の教育を七つの学園で推進しております。私どもは、第一中学校、第四小学校、第六小学校、南浦小学校の、一つの中学校、三つの小学校で連雀学園という名前であります。児童数は合計 2300 人ほどになります。七つの学園のコミュニティスクール委員会との横の連携を持っております。

なぜ、そういうふうになってくるかということで、やはり地域の子どもは地域で見守りたい。地域の子どもたちです。申し訳ございませんが、先生方は東京都の職員で4、5年で異動されます。

それで、私どもは地元の小学校の建物に、地元の子どもたちを育てていくために、先生が替わったら、方針が変わったら困るわけですから、本当に子どもたちを自分たちで見守りたいということです。その思い入れの厚さがどれだけあるかによって、その学校が響いてくるのではないかと思います。

そういうことがのめり込んでいく原因になっておりまして、私もこの学校に入って、校長先生はもう3代目でございます。副校長先生は3代替わっております。でも、この学校はますますよくな

ってくるのではないか。先月の1月30日に、東の三鷹、西の京都ということで、金子先生から私どもの三鷹を宣伝していただきまして、本当にありがとうございました。

1週間前に、私は山口市の人づくり・地域づくりフォーラムに行ってきました、三鷹の教育を宣伝させていただきました。ひょっとすると、数件視察に来るのではないかと考えておりますが、こういうふうな思い入れの強い地域の人たちがその中に入ってやるということが非常に伸びてくるのではないか。地域のシニアが持っている知識と知恵で体験の学習をさせる事が出来る、大人でなければできないことを教えられる、体験する。先生は、知識は持っていても体験が少ないかもしれませんが、我々シニアは豊富な体験がいっぱいありますので、それに応じた人たちがみんな入ってくれば、いろんなことで、いろんな授業が構築できる。

そのためには学校側のニーズと地域人材のマッチングを行えるコーディネーターの存在が大事なかなと思っております。

ありがとうございます。

○金子座長 ありがとうございました。

鈴山校長、手短に、ほかの学園との競争意識みたいなものは、いい意味ですけれども、あるような気がするんですが、いかがですか。

○鈴山校長 連雀学園の特徴を出したいということでは、ございます。連雀学園だからこそできる学習をしていきたいというふうに考えております。

また、一番人数が多いので、経営していくのも苦労があるだけに、成果を出していきたいと思っております。

○金子座長 4校ですから、大変ですね。

ありがとうございました。もっとお話しをしたいのですが、この辺で終わりたいと思います。清原市長、最後に何か一言おねがいします。

○清原市長 本日は鳩山総理、菅副総理、そして、金子座長始め、皆様、お忙しい中、三鷹市立第四小学校にお越しいただきましてありがとうございました。

私たちの場合は、「新しい公共」という言葉が先にあったのではなくて、私たちが市民の皆様と、「参加と協働のまちづくり」を教育現場でも進めることで、むしろ実際に「新しい公共」の概念があぶり出されてきたのではないかと考えています。

教育長と話しているのは、今まで取り組んできたのは「コミュニティ・スクール」であるけれども、これからは「スクール・コミュニティ」を目指したい、21世紀においても学校は地域の皆様にとって、新しさと、そして、古きものをそれぞれ守る拠点ではないかということです。「コミュニティの再生から創生へ」、そして「新しい公共」は、私たち一人ひとりが地域で支え合える新しい関係を創っていく上で重要なキーワードではないかと思えます。

今日はお忙しい日程の中、私たちがたくさんものを見ていただきたいということから、総理はじめ皆様には大変慌ただしい時間をお過ごしいただきましたが、少しでも市民の皆様の「新しい公共」の実践にこめられた思いが伝われば幸いです。

本当にありがとうございました。(拍手)



○金子座長 ありがとうございます。

○鳩山内閣総理大臣 大変ありがとうございました。皆さん方が幸せを実感しながら、仕事をして楽しんでいらっしゃる。そういう雰囲気伝わりました。

『コミュニティ・ソリューションーボランティアな問題解決に向けて』の作者として金子さんも頑張っておられますが、私どもは皆様方の大変先駆的な試みを是非、全国的にも伝播させていく役割を担っていると思いますので頑張っていきますが、本当にありがとうございました。